

2020 年度事業報告

(1) 会員数の動向

種 別 \ 年 度		2019 年度末 (2020.3.31)	2020 年度末 (2021.3.31)	備 考
正会員	企業会員	58	56	-2
	団体会員	7	7	±0
	個人会員	278	274	-4(+5-9)
	計	343	337	-6
賛助会員		33	34	+1
学生会員		1	14	+13
合 計		377	385	+8

(2) 会議

① 第9回定時総会

2020年5月26日、エッサム神田1号館(東京都千代田区)において、書面による決議権行使および、会場に出席された正会員206個(内、会場出席16個)により開催した。鮫島会長の開会挨拶に続き、林野庁木材産業課課長眞城英一様からのご祝辞を鮫島会長が代読し、その後、議長に鮫島会長を選出して、議事次第により議事を進めた。まず初めに、2019年度の事業が報告され、次いで、2019年度決算(案)および、理事辞任による後任理事の選任を審議、次いで、2020年度事業計画および、収支予算が説明され、了解、承認された。また、第3回日本木材保存協会功績賞、第31回木材保存技術奨励賞、第17回木材保存学術奨励賞の授与者を発表し、授与した。

② 理事会

i. 第1回理事会

2020年4月15日、書面会議により開催、第9回定時総会に提案する議案の内容および、理事会審議事項について審議し、第9回定時総会の議案は、審議事項として2019年度決算(案)、理事辞任による後任理事の選任、報告事項として2019年度事業、2020年度事業計画および、収支予算とし、それぞれの議案内容は、事務局案とすることを承認した。

また、第3回日本木材保存協会功績賞、第31回木材保存技術奨励賞、第17回木材保存学術奨励賞の授与者についても、事務局案を承認した。

一方、理事会の審議事項では、コロナ禍により開催方法の変更が余儀なくされた場合の対応を事務局に一任すること、報告事項では、前回理事会以降の事業、木材保存剤等登録更新(36/43製品)、同変更届(1件)、個人会員(3名)加入、2020年度木材劣化診断士登録更新講習会の実施要項、第39回木材保存士資格検定講習・試験結果等が説明され、承認し、了解した。

ii. 第2回理事会

2020年9月25日、Zoomを利用したWEB会議で開催、木材保存剤等の新規認定登録申請があった5製品について、認定登録することを承認した。また、木材保存剤等審査会の発足に伴い、木材保存剤等認定規程の内、関係する条項の改訂が提案され、承認した。一方、報告事項として会長および、常務理事の業務執行状況(定款22条第3項に規定)、前回理事会以降の事業として、個人会員加入(2名)、木材保存剤等登録更新(27/27製品)、同変更届(5件)、2020年度木材劣化診断士関係事業、2020年度木材保存士関係事業、IRG52日本大会の準備の進捗状況および、企業会員の退会(2社)があったこと等が説明され、了解した。

iii. 第3回理事会

2021年2月19日、Zoomを利用したWEB会議で開催、第10回定時総会の招集決議、2021年度事業計画(案)および同収支予算(案)、木材保存剤等の新規認定登録(6製品)および、第

4回日本木材保存協会功績賞、第32回木材保存技術奨励賞、第18回木材保存学術奨励賞授与候補者について、授賞選考委員会案を審議し、いずれも承認した。また、報告事項として会長および、常務理事の業務執行状況(定款22条第3項に規定)、前理事会以降の事業、個人会員(1名)、学生会員(12名)の加入、木材保存剤等登録変更届(2件)、木材保存士の更新状況、同資格検定試験結果、第37回年次大会の開催方法等について説明され、了解した。

③正副会長会議

2020年7月14日および、2021年1月12日、Zoomを利用したWEB会議で開催、事業の進捗状況の確認、企画運営委員会審議事項、新規認定登録、IRG52日本大会の準備状況、新たな木材保存剤等の審査体制、第10回定時総会の開催、2021年度事業計画(案)、同収支予算(案)および、協会の運営等について検討され、それぞれ担当する委員会等に必要な対応をとるよう事務局を通じて指示することとした。

(3)委員会および、部会活動

①企画運営委員会

2020年4月21日、書面会議、9月11日および、2021年2月4日、Zoomを利用したWEB会議で開催、それぞれに対応する理事会の議題(審議議題、報告事項)について検討し、付議した。

②認定委員会

2020年4月16日、メール会議、8月31日および、2021年2月3日、Zoomを利用したWEB会議で開催、審議事項では、木材保存剤等の新規認定登録、登録更新、木材保存剤等審査会発足に伴う認定規程の改訂(事務局案)について、承認した。また、変更届等については了解し、企画運営委員会に報告するとともに、それぞれに対応する理事会に付議した。

③広報(編集)委員会

会誌「木材保存」を発行する為の編集委員会と幹事会を合計11回、Zoomを利用したWEB会議で開催、奇数月(6回/年度)に発行するとともに、ホームページの充実を図った。

④木材保存士委員会

2020年度の木材保存士登録更新は、コロナ禍により、テキストを題材にレポートによる更新とした。なお、第38回木材保存講座は、更新講習会と併設していることから中止した。一方、第40回木材保存士資格検定講習・試験は、コロナ禍ではあるが、資格の継続性という観点より、2021年1月14日、15日に東京で会場開催した。また、委員会は2021年3月16日、Zoomを利用したWEB会議で開催、第40回木材保存士の資格検定試験の合格者および、次年度の講習会、資格検定試験の開催方法等を決定するとともに、木材保存講座は今年度1講義が終了することから後継講義は、引き続き難燃処理に関する講座とし、事務局より講師の候補者が示され、交渉等の業務は事務局に一任された。

⑤木材劣化診断士委員会

2020年度木材劣化診断士登録更新は、コロナ禍により、劣化診断実施報告書を提出頂くこととした。一方、2020年度木材劣化診断士資格検定講習・試験は、コロナ禍ではあるが、資格の継続性という観点より、2020年8月25日に東京で会場開催した。また、委員会は、2020年10月20日、協会会議室で開催、2020年度木材劣化診断士資格検定試験の合格者を決定した。また、次年度の講習会、資格検定試験の開催方法等を検討し、具体化は委員長に一任された。

⑥年次大会運営委員会

2020年度第1回委員会が2020年7月30日、Zoomを利用したWEB会議で開催、第36回年次大会のオンライン開催方法について決定し、委員による予行演習を踏まえ、10月27日、28日開催した。

⑦授賞選考委員会

2020年度第1回委員会が2020年12月14日、協会会議室において開催、第10回定時総会で授与する「第4回日本木材保存協会功績賞」、「第32回木材保存技術奨励賞」および、「第18回木

材保存学術奨励賞」の授与候補者の選考を行い、候補者を会長に報告した。

⑧IRG52 組織委員会

2020 年度第1回委員会を 2020 年 12 月9日、Zoom を利用した WEB 会議で開催、IRG52 日本大会の延期の報告とそれに伴う対応は、問題なく進めていること等の説明を了解した。

⑨IRG52 実行委員会

2020 年度第1回委員会を7月8日エッサム神田1号館の会場と、Zoom を利用した WEB 会議で開催、IRG52 の実行委員の役割分担を決めた。また、2020 年度第2回委員会を 2020 年 12 月 10 日、Zoom を利用した WEB 会議で開催、IRG52 日本大会の延期の報告と役割分担について、4月 に再度確認するとの説明を了解した。

⑩木質材料の難燃化等検討部会

2020 年度第1回検討部会を 11 月 12 日、Zoom を利用した WEB 会議で開催、部会の林野庁支援事業への協力体制の確認および、ワークショップの開催を決定した。また、2020 年度第2回委員会を1月 27 日、Zoom を利用した WEB 会議で開催して、2021 年2月8日、会場(エッサム神田1号館)会場と Zoom を利用した WEB 会議で開催するワークショップの講演内容を決定し、実施した。

(4) 刊行物の改訂等

ない。

(5) 事業

①公益目的事業

i. 木材保存に関する調査研究事業【公1】

木材保存に関する調査研究、諸外国との情報交流を実施し、木材および、木質材料の耐久性の向上を図り、その成果を社会へ提供する。

a. 木材および、木質材料の耐久性に関する調査研究

木材利用の推進は、快適な住環境の形成や地域経済の活性化のみならず、地球温暖化の防止につながる。近年、住宅分野、公共建築物、土木用資材、外構材において木材利用推進の取組みがなされているが、これらの分野で木材の需要拡大を推進するためには、木材の耐久性を確保することが重要である。このため、木材保存処理技術に関する調査・研究、木材および、木質材料の耐久性に関する試験を実施した外、データを収集して知見を深め、木材の劣化と物性に関する調査研究等の成果をまとめ、公表した。

b. 木造住宅の耐久性に関する調査研究

木造住宅の耐久性向上を図るため、劣化の要因を多角的に調査研究し、住宅の環境、劣化特性等を踏まえた耐久性向上の方策を検討した。また、機器を用いた劣化診断方法や維持管理方法について研究し、これらの成果を公表した。

c. 木材に注入した保存剤の分析方法の調査研究

木材に注入された木材保存剤の分析では、木材に含まれる成分や使用される接着剤等の影響をうける。これらの物質の存在下にあっても、含有量が正しく分析できる方法を研究して、成果を公表した。

d. 耐候性、難燃化に関する調査研究

木材の今後の増加が期待される需要先は、低・中層ビル等の非住宅市場、建物外装、土木利用の「エクステリア市場」等である。これらは、屋外で使用されることが多く、耐候性の向上、メンテナンス技術を確立していくことが喫緊の課題であり、「木質材料の耐候性検討部会」を組織した。また、難燃・防耐火については、「木質材料の難燃化等検討部会」を組織し、何れの部会も課題の調査・分析、今後の取り組み方等を検討した。

e. 木材保存に関する諸外国との情報交流

国際木材保存会議 (IRG) や各国の木材保存協会等との交流を図る。その一環として、今年度開催される、IRG51 スロベニア年次大会(2020 年6月)への参加を計画していたが、コロ

ナ禍により中止された。一方、IRG52 の開催では、IRG本部役員より情報を収集し、2021 年度のIRG52 日本大会の開催の準備を進めた。

ii. 木材保存に関する普及啓発および指導事業【公2】

木材保存に関する新しい知識、技術を広く社会に普及するため、普及啓発および、指導事業を実施する。

a. 広報活動の充実・強化

当協会は公益社団法人としてその使命を発揮していくため、木材保存に関する広報活動の充実・強化を図り、会誌「木材保存」の発行のほか、ホームページの更なる充実、メールマガジンの配信、会誌「木材保存」の J-STAGE への掲載等を実施した。

b. 木材保存に関する専門図書の発行

当協会は、「木材保存学入門改訂4版」、「公益社団法人日本木材保存協会規格集(2018年度版)」、「木材保存剤ガイドライン改訂3版」、「木材・木質構造の維持管理(劣化診断マニュアル、補修技術マニュアル)」等、木材保存に関する専門図書を発行している。

これらは、新技術等を提供するため適宜見直し、また、これら図書を引き続き活用して、木材保存に関する知識、技術の普及を図った。

c. 木材保存に関する講習会・講演会の開催

i. 木材保存講座の開催

コロナ禍により募集を中止した。

ii. 木材劣化診断研修会の開催

木材劣化診断に関する現地実習を含む「木材劣化診断研修会」を開催し、診断技術の習得を図った。

iii. 木材保存学術講演会の開催

当協会が公益社団法人としてその使命を発揮するため、木材保存に関する「木材保存学術講演会」を開催して、木材保存研究分野の発展に寄与した。

d. 年次大会の開催

「第36回年次大会」を開催して、木材保存に関する技術・研究分野の発展に努めた。

e. 木材保存に関する表彰

技術者・研究者の育成を図るため、木材保存技術奨励賞および、木材保存学術奨励賞を授与した。また、研究内容の向上を図るため、第36回年次大会における優秀なポスターに対してベストポスター賞および、優秀ポスター賞、更に、優秀な口頭発表に対して、ベストプレゼンテーション賞を授与した。一方、永年、協会の発展に貢献された方に功績賞を授与した。

iii. 適正な木材保存処理の推進事業【公3】

適正な木材保存処理の推進を図るため、木材保存に関する規格の整備、木材保存剤等の認定、技術者の養成等を行った。

a. 木材保存剤等の認定登録・更新

木材保存剤等の認定登録申請製品に係る性能および、安全性等に基づき、優良製品の認定登録・更新を行った。

b. 木材保存士、木材劣化診断士等木材保存に関する資格の登録

i. 木材保存士の登録・育成・更新

「第40回木材保存士資格検定講習・試験」を実施して、木材保存士の登録を行うとともに「2020年度木材保存士更新講習会」を開催して、木材保存士の資格者の登録更新を行い、適正な木材保存処理技術の習得を図った。

ii. 木材劣化診断士の登録・育成・更新

「2020年度木材劣化診断士資格検定講習・試験」を実施して、木材劣化診断士の登録

を行うとともに、「2020年度木材劣化診断士更新講習会」を開催して、木材劣化診断士資格者の登録更新を行い、保存処理木材をはじめとする種々の木質材料の劣化診断技術の習得を図り、適正な維持管理を推進した。

②収益事業

i.木材保存に関する性能試験等の受託事業【収1】

イ.保存処理木材の実用化研究会の受託

会員等の依頼により木材保存処理技術の実用化を図る為、性能基準、製造基準、製品検査基準等を策定する研究会を設置して実施した。

ロ.木材保存剤等の性能試験の受託

会員等の依頼により木材保存剤等の認定登録に係る性能試験を実施した。

ii.日本木材保存剤工業会の事務受託

日本木材保存剤工業会の依頼により文書の発送、管理等、工業会の事務を実施した。

③当協会の組織の強化・充実、活動の発展

当協会の運営にあたり、新規会員加入を推進して、組織の強化・充実を図った。また、各種専門委員会および、部会、研究会を開催して、協会活動の発展に努めた。